

ライフケアガーデン熱川

岩田五月(居宅CM)・竹内司(施設CM)

功 績 心身・生活共に崩壊寸前だった「もてご入居者」を、「居宅ケアマネージャー」と「施設ケアマネージャー」による光速コンビネーションで救出すると共に、前例がほとんどない「再入居」に繋げた功績。

推 薦 者 勝又健二(事務課)

推 薦 理 由 多くの場合、プライドなども邪魔をして、自身の都合で退居したご入居者が自らの意志で「出戻り」するケースはほとんどありません。

そのような中で今回「再入居」に繋がったのは、これも一つの「Our Team」の形であると共に、「経営的」な部分もそうですが、何より二人の「関わったご入居者を大切にする」と言う「親身な対応」がしっかりできていたが故の結果であったため、理事長賞に相応しいと思い、推薦させていただきました。

内 容

当施設の居宅支援事業所の(主任)ケアマネージャーである岩田。そして当施設の介護課長兼施設ケアマネージャー兼入居相談員でもある竹内。共に入職15年を超える百戦錬磨の職員です。当然キャリアが長ければ、そしてそれぞれの立場を踏まえれば、「このコンビだから可能な事」と言う事があります。

昨年11月末に、同年5月に入居したばかりの一人の身寄りのないご入居者が退居することになりました。理由は知人に「海に見えるステキな家(※実際は人里離れた『山奥』の別荘)があるから買わないか?生活は僕がサポートするから」と誘われ、その物件を購入してしまったため。

この時点で察するものもありますが、とにかくこれを知った施設CMでもある竹内は、当然強く止めたのですが、ご本人は頑として聞き入れませんでした。

通常、施設退居後に施設CMがその退居者にできること、関わる機会は無いのですが、その後の最悪な展開が容易に想像できた竹内は、連携が容易な岩田に在宅での担当をお願いした。結局僅か3ヶ月ほどで知人との新居での同居生活は両者の仲たがいにより破綻。ご本人の健康状態も危険なレベルに差し掛かってしまいました。この間、岩田が逐次情報入手し、竹内とその後の対応を協議。当の本人は竹内の忠告を無視し、啖呵を切って出て行った手前、簡単には「戻りたい」とは言い難いご様子だったので、竹内は裏から「このご入居者(のお金)を手放したくない周囲の説破・引き離しにあたりつつ、再入居に必要な状況を全て最短ルートで整え、岩田が表からご本人の希望の聞き役に回り、本人と施設の間を取り持つことで、無用な軋轢を生じさせずに再入居に導くことができました。そして、手続き面の詰めの段階で竹内と再会、和解しました。その時、初めて竹内の親身な対応に心から感謝したとのこと。あれから2ヶ月ほどが経った現在、ご本人は生活・心身ともに活力が戻り、退居された頃より生きる希望が満ちているご様子です。この「異例の再入居」は、長く多くを共にしてきた二人の絶妙な連携プレイでしか成し得なかった結果と言えるでしょう。